大　使　館　情　報

2022 年 6 月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢
（1）経済情勢
（2）経済政策等
（3）金融政策
（4）為替市場
（5）株式市場

2．ブラジル政治情勢
［内政］
（1）閣僚の交代（鉱山エネルギー大臣）
（2）モラエス連邦最高裁判所判事に対する刑事告訴
（3）社会保障政策「アウシリオ・ブラジル」の最低給付額の固定化
（4）ボルソナーロ政権の支持率
（5）2022 年大統領選に関する世論調査
（6）ペルナンブーコ州の災害対応
［外交］
（1）フランサ外相のウルグアイ訪問
（2）ボルソナーロ大統領のガイアナ共和国訪問
（3）UAE 大統領逝去の弔意・新大統領就任への祝意の表明
（4）BRICS 外相会合（オンライン）の実施
（5）第 6 回伯中ハイレベル協議協力委員会（COSBAN）（オンライン）の開催
（6）アフリカの日祝賀行事の開催

3．トピックス
（1）林大使のゴイアニア市訪問（2022 年 5 月 22 日～23 日）
（2）林大使とリオ・ブランコ学院生徒との語る会の実施（5 月 27 日）
（3）林大使のアニメサミット 2022 への参加（5 月 28 日）

4．大使館からのお知らせ
（1）在伯公館 SNS リンク一覧
（2）外務省海外安全ホームページ
（3）ブラジル渡航情報

１．ブラジル・マクロ経済情勢

（１）経済情勢（5 月発表の経済指標）

（ア）2022 年第 1 四半期の実質 GDP 成長率は前期比+1.0%、前年同期比+1.7%となった。

（イ）3 月の鉱工業生産指数は前月比+0.3%、前年同月比▲2.1%となった。

（ウ）3 月の小売売上高は前月比+1.0%、前年同月比+4.0%となった。

（エ）4 月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+1.06%となり、前月（+1.62%）から上昇幅は 0.56%ポイント縮小。直近 12 か月累計は+12.13%となり、前月（同+11.30%）から上昇幅は 0.83%ポイント拡大した。

（オ）失業率（2～4 月）は 10.5%となり、3 か月前（2021 年 11 月～2022 年 1 月）の移動平均 11.2%から 0.7%ポイント低下。また前年同期比（2021 年 2～4 月）の 14.8%から 4.3%ポイント低下した。

（カ）伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus 調査）については、職員によるストライキの影響で更新は行われなかった。

（２）経済政策等

（ア）5 月 18 日、連邦会計検査院が電力公社エレトロブラスの民営化を承認。

（イ）5 月 23 日、経済省は大豆、パスタ、ビスケット、米、建材等、6,195 品目に対する関税の 10%引下げを発表。パンデミックやウクライナ情勢による影響を軽減するためのもので、2023 年末までの措置。

（ウ）5 月 25 日、下院議会において、燃料、天然ガス、電気、通信、公共交通機関に係る ICMS（州税、商品流通サービス税）の税率について、上限を 17%に設定する法案が可決、上院へ送付された。

（３）金融政策

5 月 3 日及び 4 日に開催された伯中央銀行金融政策委員会(Copom)において、政策金利である Selic 金利を 100bp 引き上げて 12.75%とすることが決定された。政策金利の引上げは 2021 年 3 月以降 10 会合連続。次回会合は 6 月 14 日及び 15 日に開催。

（４）為替市場（レートは伯中銀の公表値から算出）

（ア）5 月の為替市場は 4.72～5.15 レアル/ドルで推移。

（イ）月の前半は 5.00～5.15 レアル／ドルで推移。米国の金融引締めや中国の景気先行き懸念等を材料に、概ね下落傾向となった。

（ウ）月の後半は 4.72～5.07 レアル／ドルで推移。内外の金融政策を巡る動向（米での積極的な利上げ観測の後退、中国での利下げ等）等を材料に概ねレア

ル高傾向で推移した。

（５）株式市場

（ア）5 月の株式市場は 103,110～111,942 ポイントで推移。

（イ）月の前半は 103,110～108,344 ポイントで推移。中国の景気先行き懸念や資源価格の動向等を材料に、概ね下落傾向となった。

（ウ）月の後半は 106,247～111,942 で推移。国内での民営化の進展や燃料費に係る税制を巡る動向の他、資源価格上昇等を材料に、概ね上昇傾向となった。

２．ブラジル政治情勢（5 月の出来事）

【内政】

（１）閣僚の交代

5 月 11 日付でアルブケルケ鉱山エネルギー大臣が辞任し、アドゥルフォ・サクシダ経済省戦略担当特別顧問が、後任として就任した。

（２）モラエス連邦最高裁判所判事に対する刑事告訴

5 月 17 日、ボルソナーロ大統領は、連邦最高裁判所（STF）に対し、モラエス STF 判事を権力乱用により刑事告訴した。翌 18 日、トフォリ STF 判事は同刑事告訴を棄却した。

（３）社会保障政策「アウシリオ・ブラジル」の最低給付額の固定化

5 月 18 日、連邦政府は、社会保障制度「アウシリオ・ブラジル」による世帯あたりの最低給付金額について、これまで 2022 年末までの移行措置として 400 レアルとされていたものを、2022 年末以降についても同金額で固定する旨の法令を裁可した。なお、支給対象世帯数は約 1,810 万世帯となる由。

（４）ボルソナーロ政権の支持率

5 月 11 日、Quaest 社が 5 月 5 日から 8 日にかけて 2 千人を対象に実施した世論調査の結果によると、ボルソナーロ政権の支持率は、25%（前回調査：26%）、不支持率は 46%（前回調査：47%）となっている。

（５）2022 年大統領選に関する世論調査

（ア）5 月 20 日、Ipespe 社が、5 月 16 日から 18 日にかけて 1 千人を対象に実施した世論調査の結果によれば、第 1 回戦投票で投票したい人物はルーラ元大統領(PT)が 44%（前月比－1%）、ボルソナーロ大統領(PL)が 32%（前月比+1%）となっている。

（イ）5 月 25 日、Datafolha 社が、5 月 25 日から 26 日にかけて、2, 556 人を対象に実施した世論調査の結果によれば、第 1 回戦投票で投票したい人物はルーラ元大統領(PT)が 48％（前回 3 月調査：43%）、ボルソナーロ大統領(PL)が 27％(前回調査:26%)となっている。

（６）ペルナンブーコ州の災害対応

5 月 28 日、伯北東部・ペルナンブーコ州にて、洪水や土砂崩れにより多くの家屋が崩壊し、大きな被害が発生したことへの対応としてブラジル陸軍及びブラジル海軍が犠牲者の捜索・救助及び物資輸送を行っている。

【外交】

（１）フランサ外相のウルグアイ訪問

フランサ外相は、5 月 3 日モンテビデオを訪問し、ブスティージョ・ウルグアイ外相と会談を実施した。両外相は、域外共通関税の見直し等のメルコスールの近代化に係るアジェンダについて協議した。

（２）ボルソナーロ大統領のガイアナ共和国訪問

ボルソナーロ大統領は、5 月 6 日ガイアナ共和国を訪問し、アリ・ガイアナ共和国大統領と面会し、二国間、地域、国際関係等の議題について包括的な協議を行い、共同声明を発出した。

（３）UAE 大統領逝去の弔意、新大統領就任への祝意の表明

伯外務省は、プレスリリースを通じ、5 月 13 日にハリーファ UAE 大統領の逝去に伴う弔意を、また 16 日にムハンマド皇太子が新大統領に選出されたことに祝意を示す声明を発出した。

（４）BRICS 外相会合（オンライン）の実施

5 月 19 日、中国議長の下、BRICS 外相会合がオンラインにて開催され、「BRICS 諸国の連帯及び協力の強化：新たな国際情勢の特徴及び議題への対応」と題された共同声明が採択された。第一部には BRICS 加盟国の外相が参加し、第二部では議長国に招待されたその他 9 カ国（サウジアラビア・アルゼンチン・カザフスタン・エジプト・アラブ首長国連邦・インドネシア・ナイジェリア・セネガル・タイ）の外相も参加した。

（５）第 6 回伯中ハイレベル協議協力委員会（COSBAN）（オンライン）の開催

5 月 23 日、モウラォン伯副大統領及び王岐山中国国家副主席が両議長を務め

る形で、第6回伯中ハイレベル協議協力委員会（COSBAN）がオンラインで開催された。両議長は伯中間の戦略的パートナーシップの10周年を祝い、今後数年間の両国関係の指針として、共同計画書（Plano Executivo 2022-2026）及び10カ年戦略計画（Plano Extratégico 2022-2031）を発表した。

（６）アフリカの日祝賀行事の開催

5月25日、アフリカの日を祝う祝賀行事が伯外務省にて開催され、ボルソナーロ大統領他、フランサ外相、Martim Mbeng駐伯カメルーン大使等、関係者が参加した。

３．トピックス

（１）林大使のゴイアニア市訪問（2022 年 5 月 22 日～23 日）

5 月 22 日～23 日、林大使はゴイアス州ゴイアニア市を訪問。

22 日夜にはゴイアス日伯協会主催の大使歓迎会に出席し、地域の日系社会との交流を深めた。協会施設を視察し、記念植樹を行った。歓迎会にはエドゥアルド・プラド・ゴイアス州議員やタレントのユージ・タマシロ氏も参加。

23 日午前には、ゴイアス州議会にて実施された、ゴイアス州における「日本人移住の日」（6 月 18 日）制定記念式典に参加し、スピーチを行った。また、同式典にてルドヴィコ･テイシェイラ議員賞メダルを受領した。同日昼には AGREX DO BRASIL 社の日本人駐在員と意見交換を行い、午後にはゴイアス州商業連盟（FECOMERCIO）会長のマルセロ･バイオッチ氏らと日本とゴイアス州の関係強化について意見交換を行った。

（２）林大使とリオ・ブランコ学院生徒との語る会の実施（5 月 27 日）

5 月 27 日、林大使はリオ・ブランコ学院（ブラジル外交官学校）の生徒らを大使館及び公邸に招き、「日本外交及び大使の経験」について講演を行った。その後、館員による日本外務省の仕組みと若手外交官のキャリアについてプレゼンが行われ、イベント後は館員らを交えた交流が行われた。

（３）林大使のアニメサミット 2022 への参加（5 月 28 日）

5 月 28 日、林大使はブラジリア市民公園にて実施された「アニメサミット 2022」に「鬼滅の刃」の竈門炭治郎のコスプレで参加し、冒頭挨拶を行った。その後、館員による日本のアニメ・漫画についての講演が行われた。

4. 大使館からのお知らせ

（１）在伯公館 SNS リンク一覧

在ブラジル大使館をはじめ各総領事館及び領事事務所では、SNS にて文化イベントを含め最新情報等を随時更新中（以下リンク先をご参照されたい）。

在ブラジル大使館　：facebook　instagram　YouTube
在ベレン領事事務所：facebook
在マナウス総領事館：facebook
在レシフェ総領事館：facebook　instagram
在リオデジャネイロ総領事館：facebook　instagram　YouTube
在サンパウロ総領事館：facebook　YouTube
在クリチバ総領事館　：facebook　YouTube

（２）外務省　海外安全ホームページ

（ア）各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開している。
http://www.anzen.mofa.go.jp/

（イ）世界各国の在外邦人に対して最低限必要な安全対策を周知することを目的にした「ゴルゴ１３の中堅・中小企業向け海外安全対策マニュアル」を公開している。2021 年３月、新型コロナウイルス感染症の感染症とテロといった複合的なリスクへの対処の必要性を伝えるため、番外編として「感染症流行下の安全対策」を追加する増補版を公開した。
https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/golgo13xgaimusho.html

（ウ）各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き　ブラジル」を作成し公開している。
https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html

（エ）各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開している。在伯大使館の情報（令和３年度第４四半期）は以下のリンク先から。
https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html

（３）ブラジル渡航情報

（ア）危険情報
最新更新日：2022 年 4 月 5 日
http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_259.html
以下の地域が「レベル１：十分注意してください。」となっている。

・ブラジリア連邦区
・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
・リオデジャネイロ州大リオ圏
・エスピリトサント州大ビトリア圏
・アマゾナス州大マナウス圏
・ロライマ州北部
・パラー州大ベレン圏
・ペルナンブーコ州大レシフェ圏
・バイーア州大サルバドール圏
・セアラ州大フォルタレーザ圏
・パラナ州大クリチバ圏
・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

（イ）安全対策基礎データ
最新更新日：2020 年 8 月 6 日
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html
　主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連絡先を公開している。

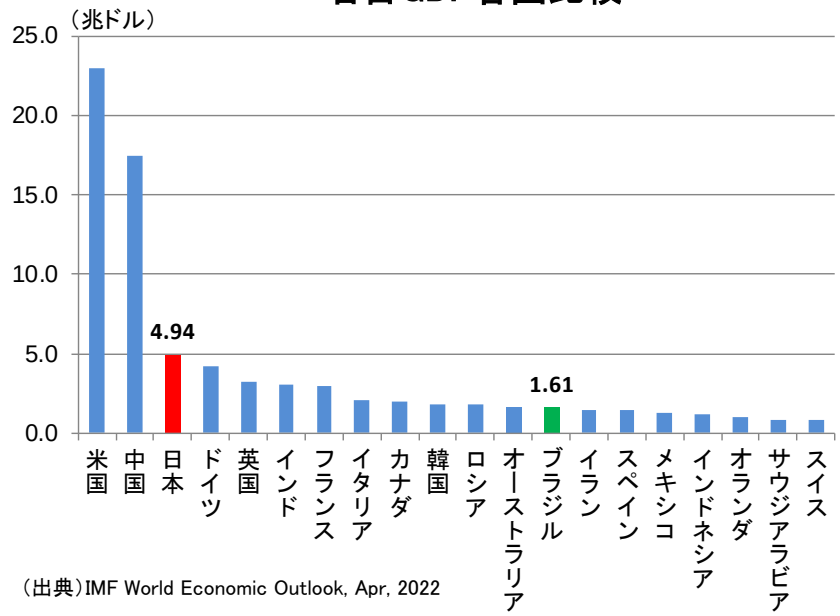
（ウ）テロ・誘拐情勢
最新更新日：2019 年 6 月 10 日
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html

ブラジル経済・二国間経済関係概観

Ⅰ. 経済構造

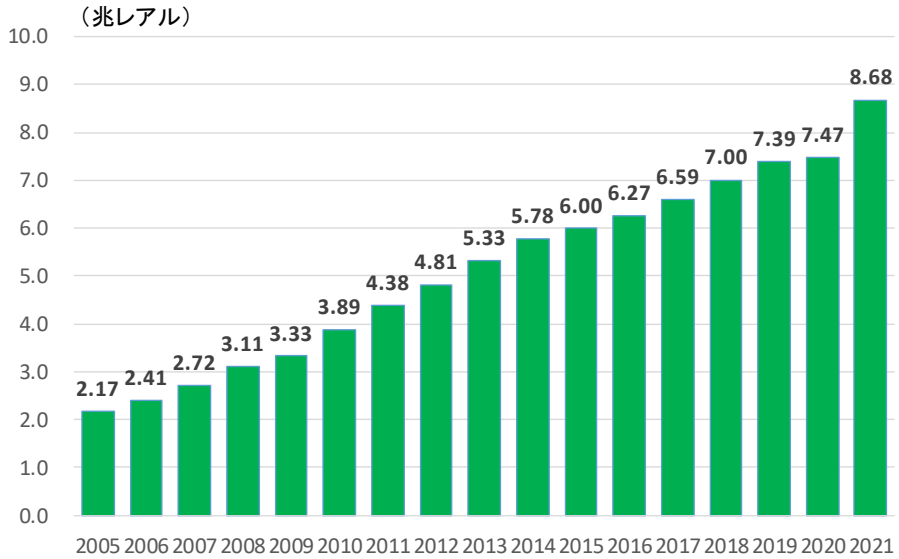
1. 人口約2億1,331万人、面積約851万km²（2021年）
2. 世界第13位の経済規模（名目GDP約1兆6,081億ドル（2021年）：日本の約33%）。一人当たりGDP（約7,564ドル（2021年））は、日本の約19%。
3. 世界有数の農業・資源国であるが、産業別国内総生産（GDP）額では第三次産業（サービス業）が高いウェイトを占めている。
4. GDPを需要項目別でみると、家計消費や総固定資本形成（投資）といった内需が成長に寄与している。

名目GDP各国比較



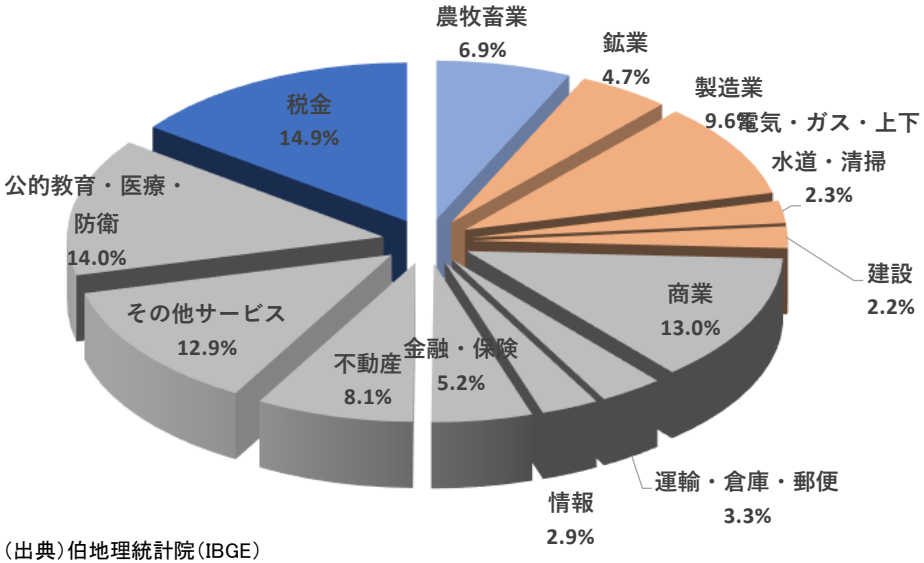
（出典）IMF World Economic Outlook, Apr, 2022

名目GDPの推移



（出典）伯地理統計院（IBGE）

名目GDPの産業別構成比（2021年）

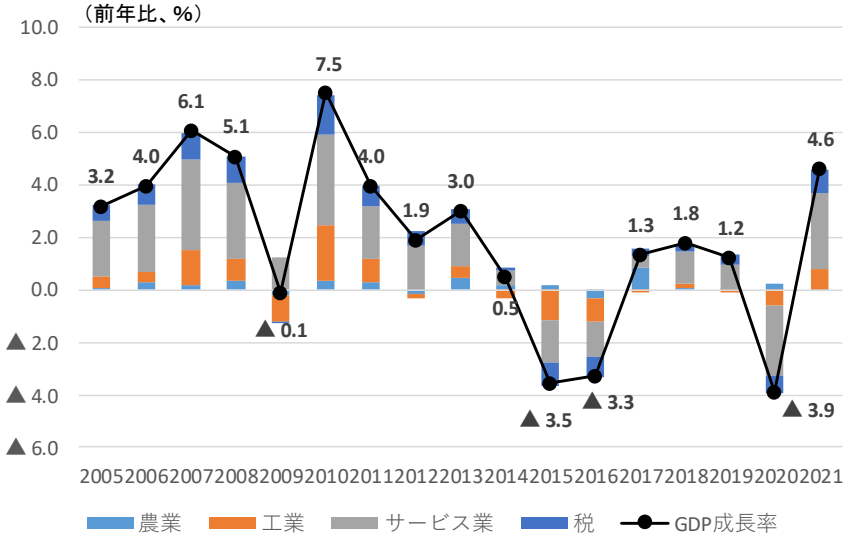


（出典）伯地理統計院（IBGE）

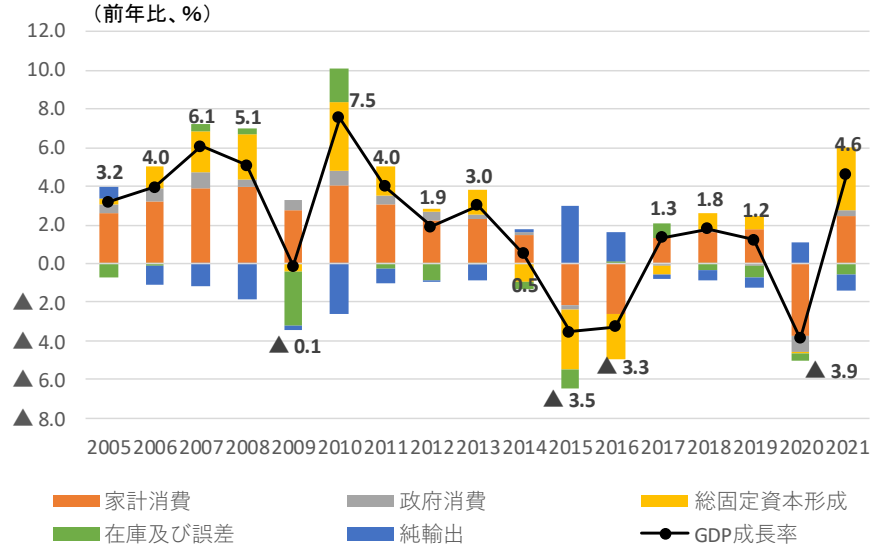
II. 経済の現状

ブラジル地理統計院（IBGE）が2022年3月に発表した2021年の実質GDP成長率は前年比+4.6%（2年ぶりのプラス）、第4四半期では、前期比+0.5%（3四半期ぶりのプラス）、前年同期比+1.6%（4四半期連続のプラス）となった。

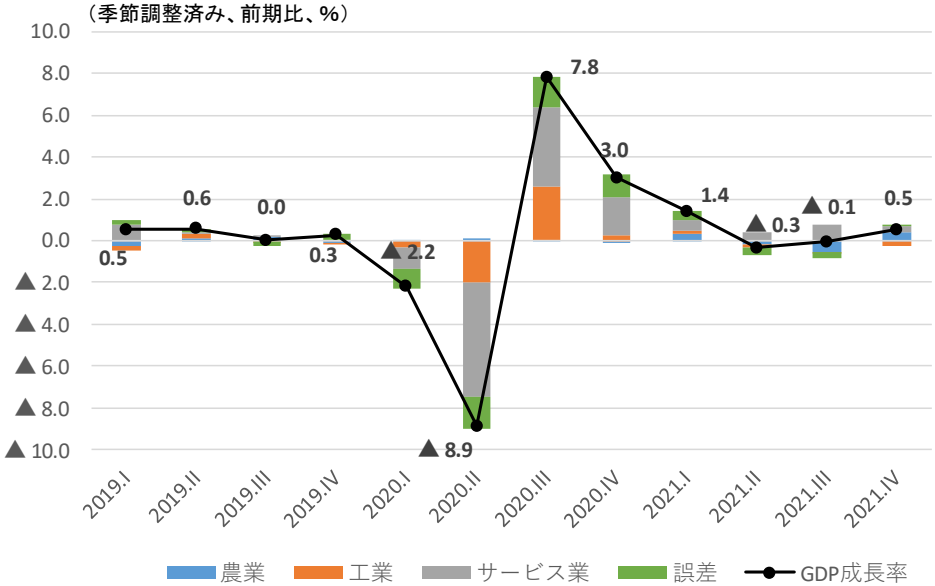
実質GDP成長率と産業別寄与度の推移（暦年）



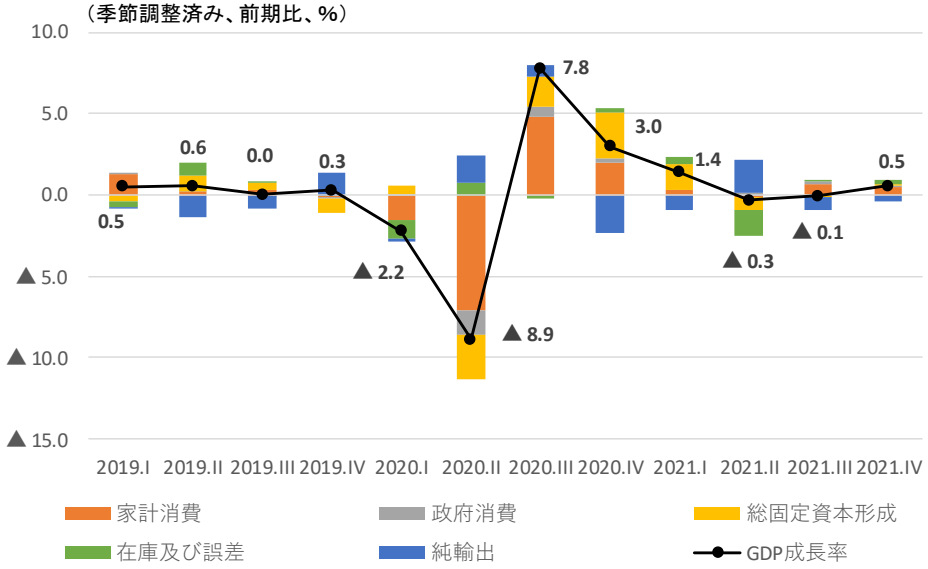
実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移（暦年）



実質GDP成長率と産業別寄与度の推移（四半期）

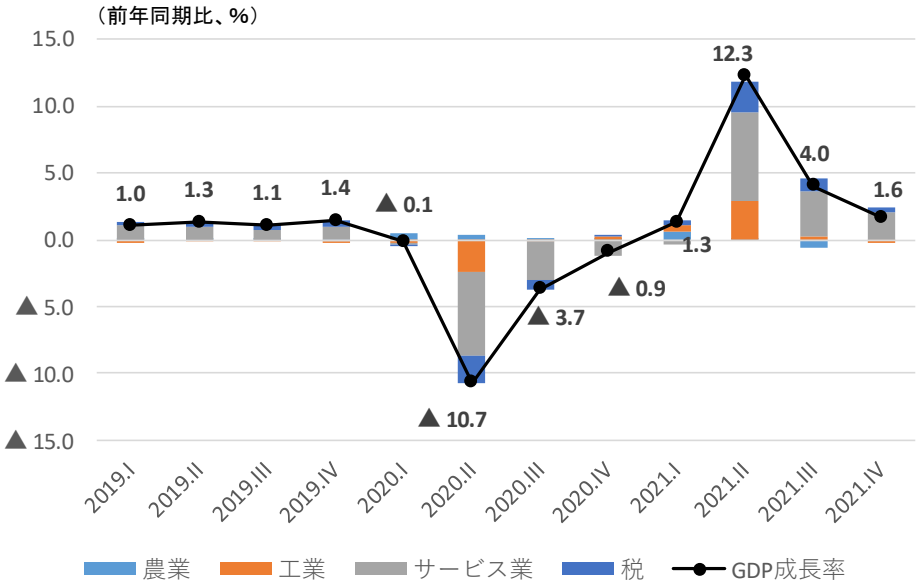


実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移（四半期）

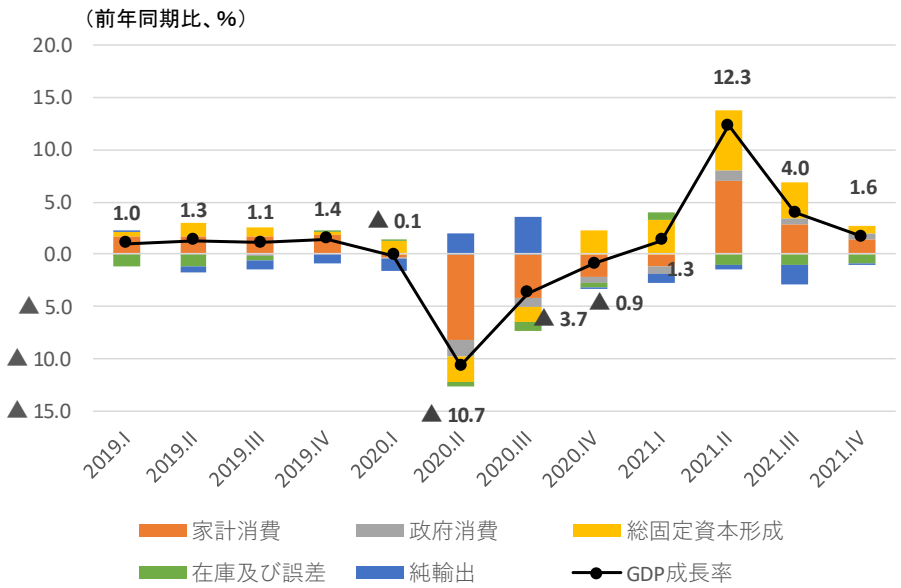


※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「誤差」、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除したもの。（出典）伯地理統計院（IBGE）

実質GDP成長率と産業別寄与度の推移（四半期）



実質GDP成長率と需要項目別寄与度の推移（四半期）



※寄与度はIBGE公表値から当館にて試算、「在庫及び誤差」はGDP全体から各項目を除したもの。（出典）伯地理統計院（IBGE）

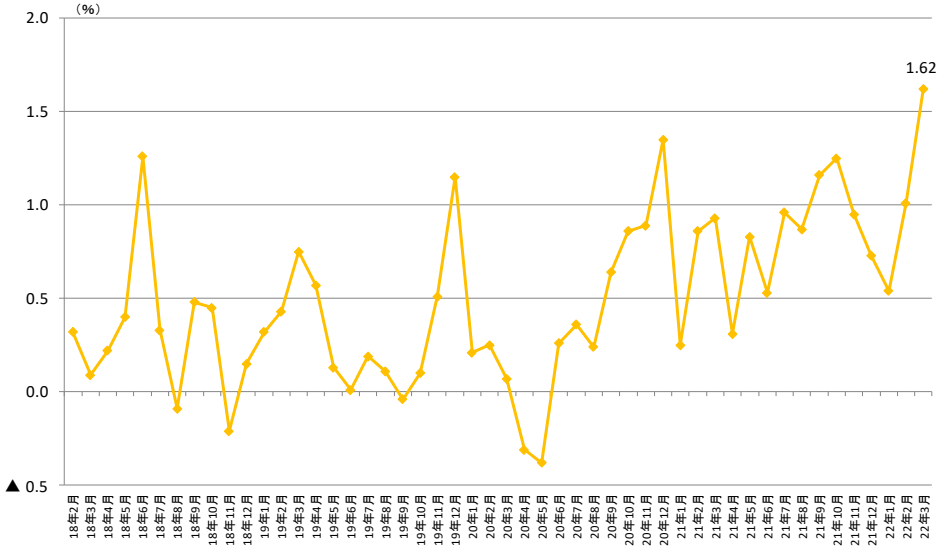
≪各機関によるGDP成長率見通し≫

	2022	2023
IMF （2022年4月）	+0.8%	+1.4%
伯経済省 （2022年3月）	+1.5%	2.5%
伯中銀 （2022年3月）	+1.0%	–
伯中銀Focus （2021年4月29日）	+0.7%	+1.0%

物価の動向

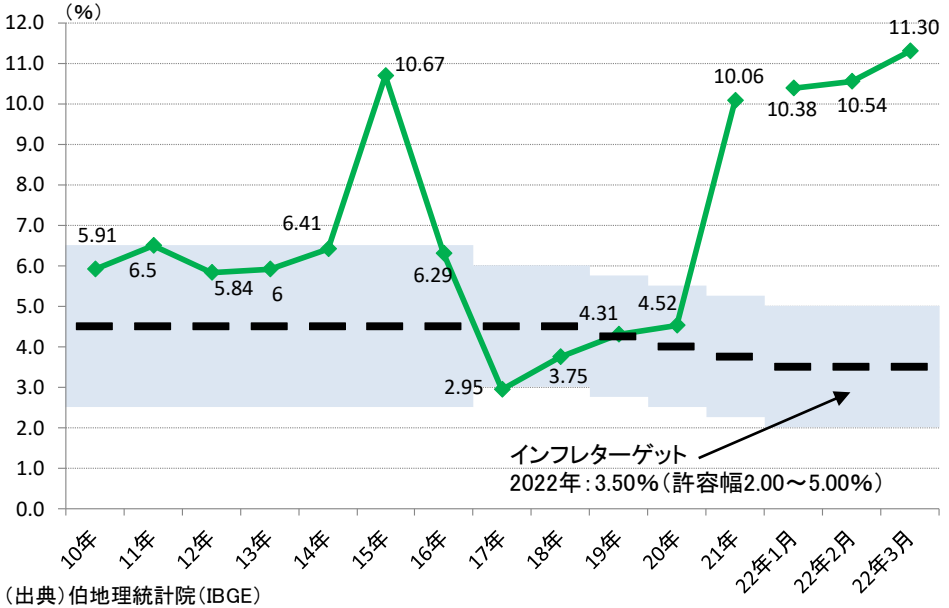
3月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+1.62%、直近12か月累計では11.30%となった。

拡大消費者物価指数（IPCA）上昇率の推移（各月）



（出典）伯地理統計院（IBGE）

拡大消費者物価指数（IPCA）上昇率の推移（12か月累計）

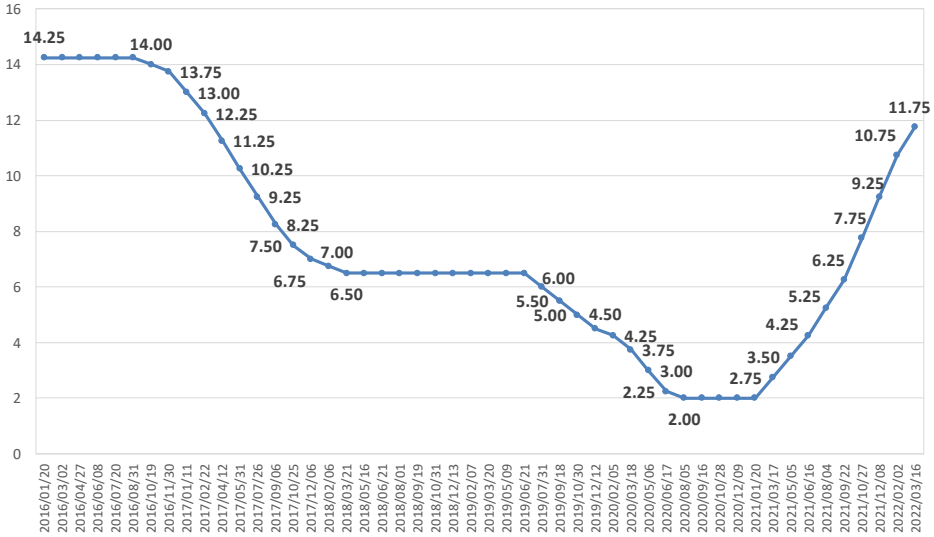


（出典）伯地理統計院（IBGE）

政策金利

伯中央銀行金融政策委員会（Copom）は5月3日及び4日に開催。

政策金利の推移（2016年～）



（出典）伯中央銀行

労働市場、消費、生産、財政収支の動向

失業率の推移（3か月移動平均）

失業率（2022年1～3月））は11.1%となった。

（出典）伯地理統計院（IBGE）

小売売上高指数の推移（月次）

小売売上高（2月）は前月比+1.1%、前年同月比+1.3%となった。

（出典）伯地理統計院（IBGE）

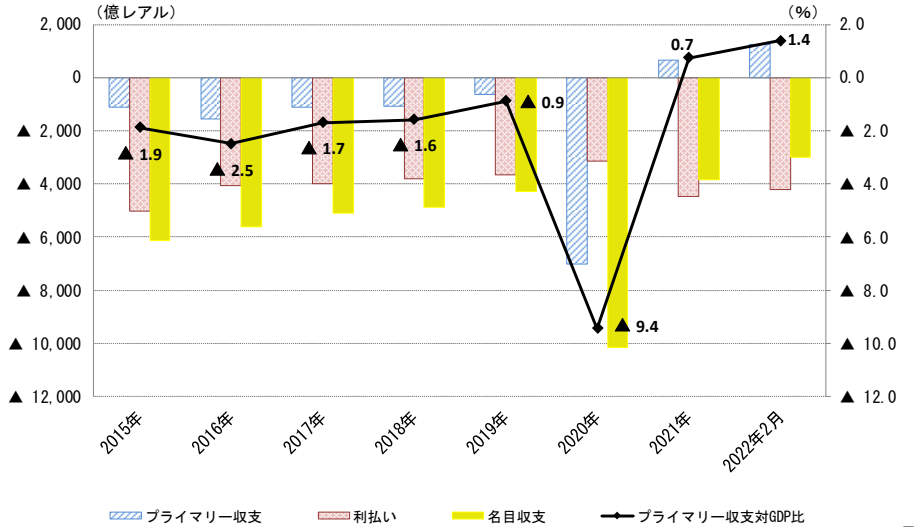
鉱工業生産指数の推移（月次）

鉱工業生産（2月）は前月比+0.7%、前年同月比▲4.3%となった。

（出典）伯地理統計院（IBGE）

財政収支の推移

公的部門の2022年2月のプライマリーバランスは+1,234億レアルの黒字、利払いは▲4,225億レアル、名目収支は▲2,991億レアルとなった。



（出典）伯中央銀行

国際収支の動向

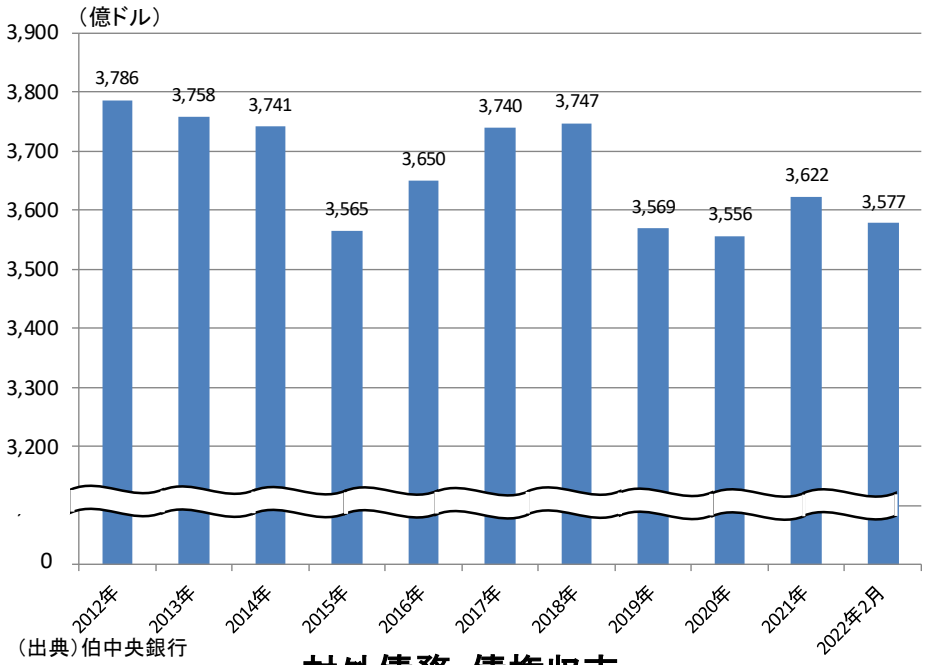
国際収支

（億ドル）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年2月
経常収支	▲ 220	▲ 515	▲ 650	▲ 245	▲ 279	▲ 105
貿易収支	573	434	265	324	364	21
サービス収支	▲ 383	▲ 360	▲ 355	▲ 209	▲ 171	▲ 33
第1次所得収支	▲ 432	▲ 588	▲ 573	▲ 383	▲ 505	▲ 98
第2次所得収支	21	▲ 0	12	23	33	5
資本移転収支	4	4	4	41	2	0
金融収支	▲ 171	▲ 523	▲ 644	▲ 125	▲ 337	▲ 116
直接投資	▲ 475	▲ 761	▲ 464	▲ 413	▲ 273	▲ 121
対外直接投資	213	20	228	▲ 35	192	44
対内直接投資	689	782	692	378	464	166
証券投資	177	69	192	129	▲ 57	▲ 67
金融派生商品	7	28	17	54	▲ 10	▲ 6
その他投資	69	113	▲ 128	247	▲ 159	67

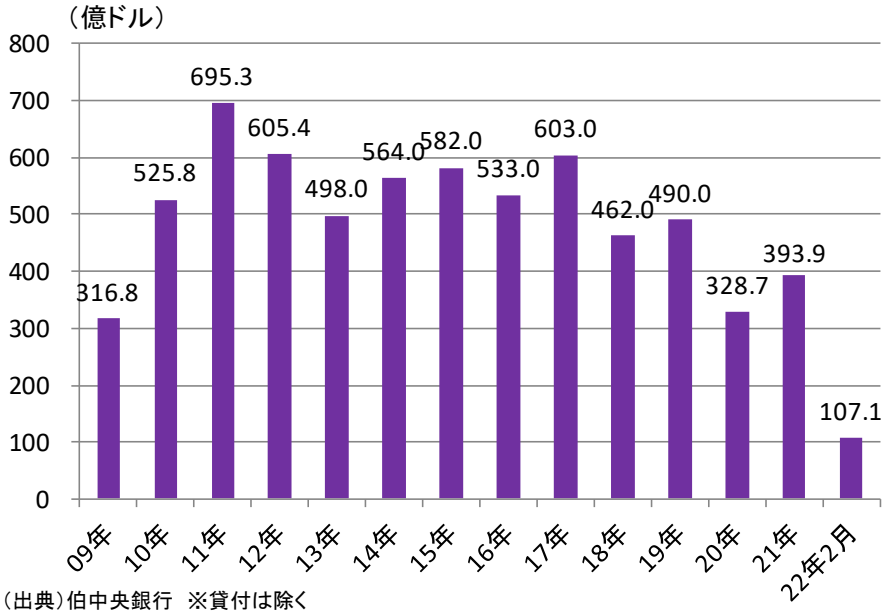
（出典）伯中央銀行

外貨準備高



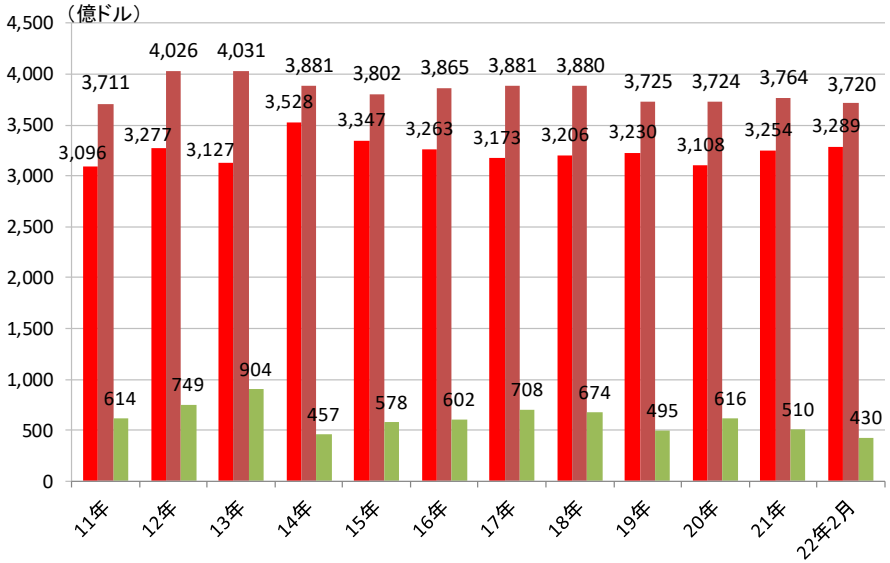
（出典）伯中央銀行

外国直接投資（資本参加分）流入額



（出典）伯中央銀行　※貸付は除く

対外債務・債権収支



（出典）伯中央銀行

為替・株価の推移

4月の為替市場は4.62～5.02レアル/ドルで推移。

月の前半は4.62～4.75レアル／ドルで推移。国内のインフレ懸念の他、米国の金融引締めの見通しを巡る発言等を材料に上下し、概ね横ばいとなった。

月の後半は4.64～5.02レアル／ドルで推移。米国の金融引締めペース加速についての発言や、中国での新型コロナウィルス感染拡大によるロックダウンを材料に、レアル安傾向で推移した。

為替の推移（対米ドル）

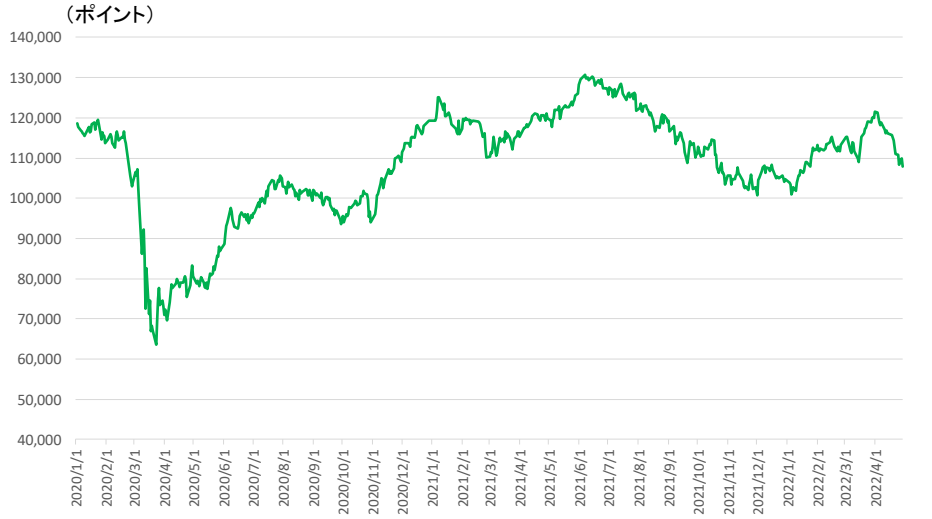
（出典）伯中央銀行

4月の株式市場は107,876～121,570ポイントで推移。

月の前半は116,147～121,570ポイントで推移。ウクライナ情勢の他、国内のインフレ動向や米国の金融引締めの見通しに関する発言等を材料に下落傾向となった。

月の後半は107,876～115,687で推移。ウクライナ情勢の他、国内のインフレ動向や伯米における金融政策の見通しを巡る動向を材料に下落傾向となった。

株価指数（Ibovespa）の推移



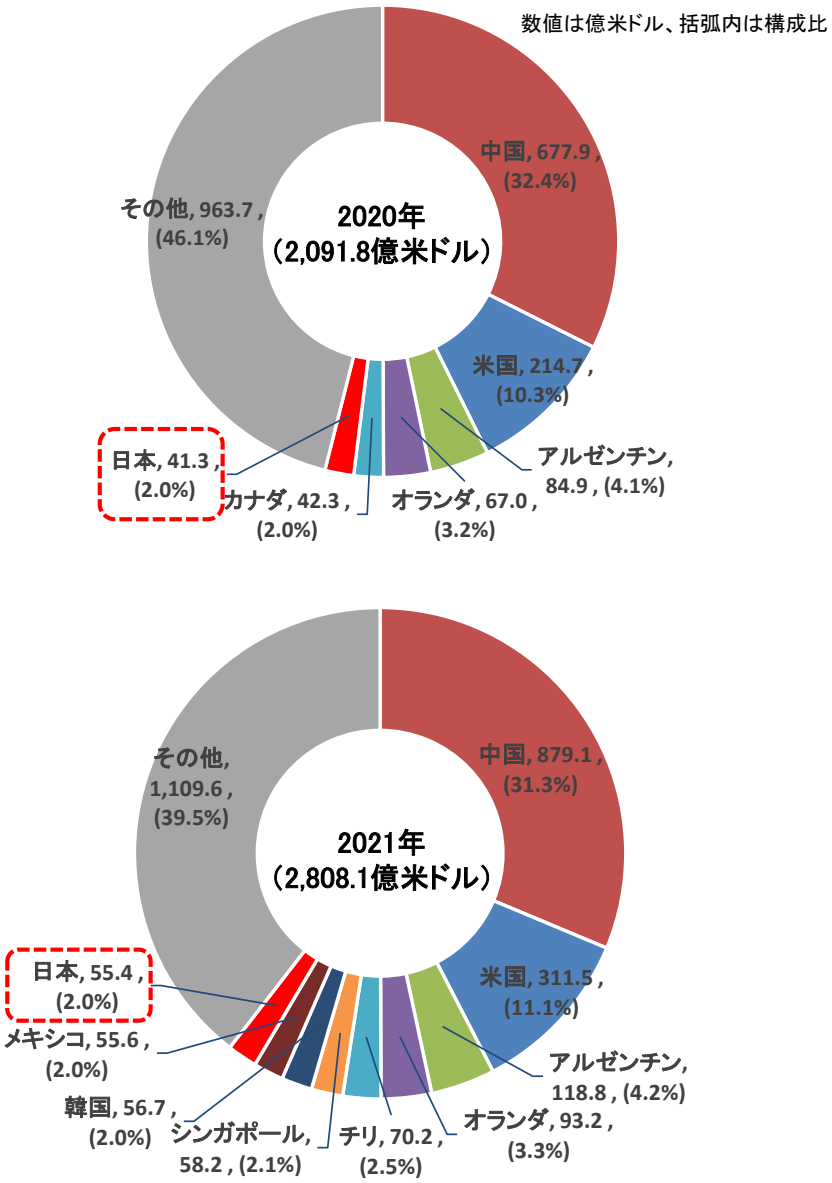
（出典）B3

Ⅲ. 貿易動向

ブラジルの貿易は、輸出、輸入ともに中国、米国、アルゼンチンが上位に占めている。2021年においては、日本は貿易相手国として輸出で9位、輸入でともに上位8位となっている。

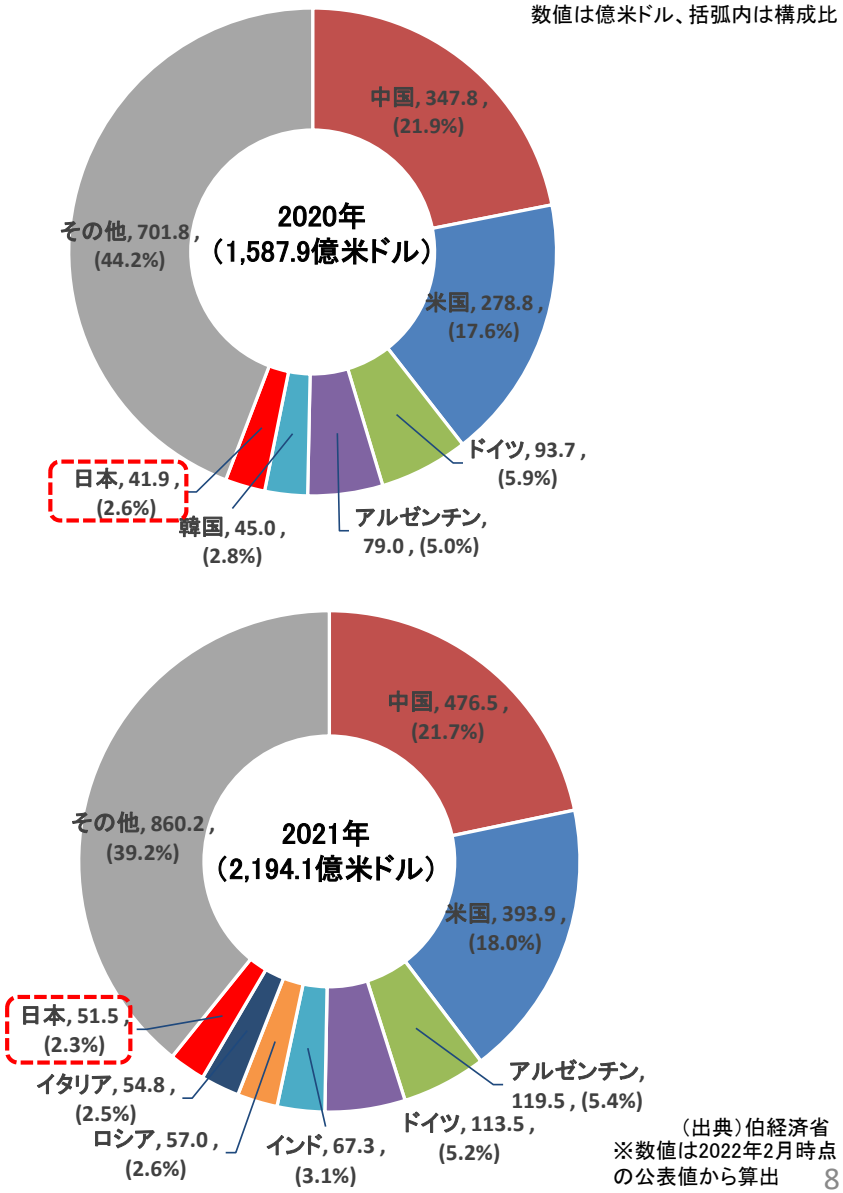
輸出額と構成比（国別）

数値は億米ドル、括弧内は構成比



輸入額と構成比（国別）

数値は億米ドル、括弧内は構成比

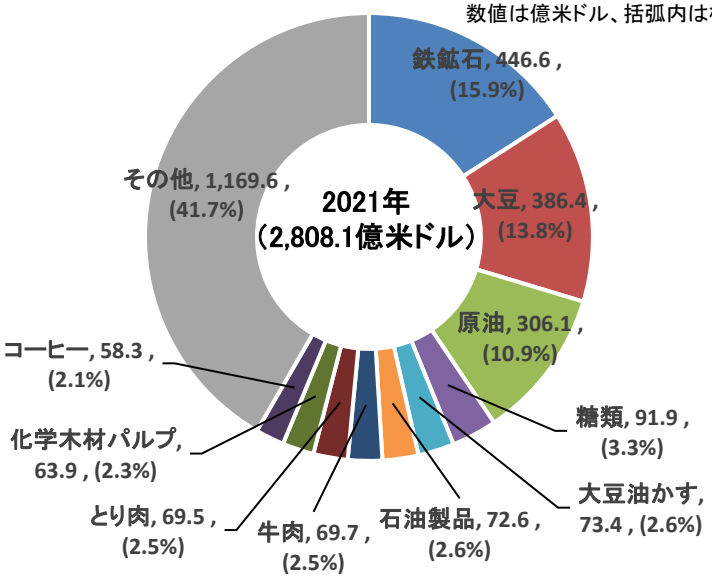


（出典）伯経済省
※数値は2022年2月時点の公表値から算出

主要輸出品目は資源（鉄鋼石、原油等）、食品（大豆、肉類、糖類等）。主要輸入品目は石油製品、自動車部分品を中心に、電気機器や医療用品など幅広い品目にわたっている。

ブラジルの主要輸出品目と主要相手国

数値は億米ドル、括弧内は構成比



【鉄鋼石】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	446.6	100.0
①	中国	288.4	64.6
②	マレーシア	28.6	6.4
③	バーレーン	17.9	4.0
④	日本	17.9	4.0
⑤	オマーン	13.0	2.9

【大豆】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	386.4	100.0
①	中国	272.1	70.4
②	スペイン	16.7	4.3
③	タイ	12.9	3.3
④	オランダ	12.0	3.1
⑤	トルコ	10.1	2.6

【原油】

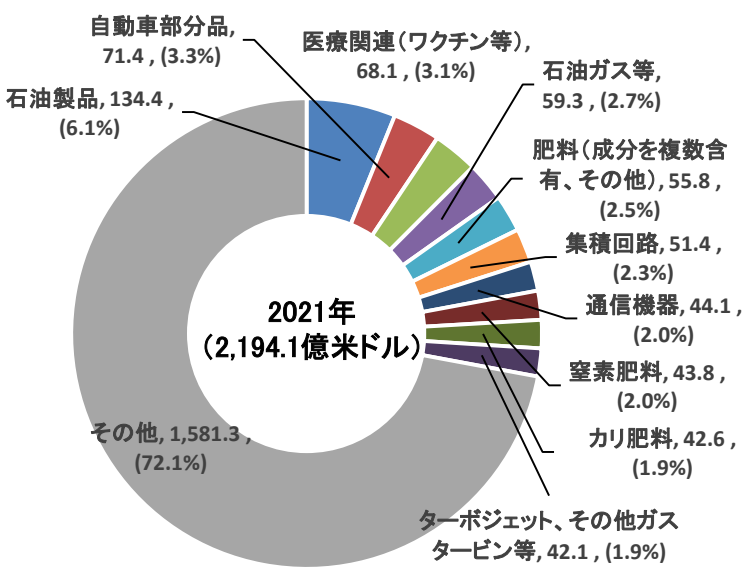
		億米ドル	構成比（%）
	全　体	306.1	100.0
①	中国	142.5	46.6
②	米国	30.8	10.1
③	インド	22.4	7.3
④	チリ	19.6	6.4
⑤	ポルトガル	16.3	5.3

【糖類】

		億米ドル	構成比（%）
	全　体	91.9	100.0
①	中国	14.1	15.4
②	アルジェリア	7.8	8.4
③	ナイジェリア	6.0	6.5
④	バングラデシュ	5.8	6.3
⑤	カナダ	4.4	4.8

ブラジルの主要輸入品目と主要相手国

数値は億米ドル、括弧内は構成比



【石油製品】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	134.4	100.0
①	米国	74.4	55.4
②	インド	13.5	10.1
③	UAE	7.3	5.4
④	オランダ	6.4	4.7
⑤	スペイン	4.5	3.4

【自動車部分品】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	71.4	100.0
①	日本	9.3	13.1
②	中国	8.8	12.3
③	ドイツ	8.5	11.8
④	メキシコ	6.3	8.8
⑤	米国	5.8	8.1

医療用品（ワクチン等）

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	68.1	100.0
①	米国	23.7	34.9
②	中国	12.9	19.0
③	ベルギー	7.8	11.4
④	スイス	5.3	7.8
⑤	ドイツ	4.1	6.0

【石油ガス等】

		億米ドル	構成比（%）
	合　計	59.3	100.0
①	米国	41.8	70.5
②	ボリビア	12.1	20.3
③	アルゼンチン	2.8	4.7
④	トリニダードトバゴ	1.5	2.5
⑤	アンゴラ	0.5	0.8

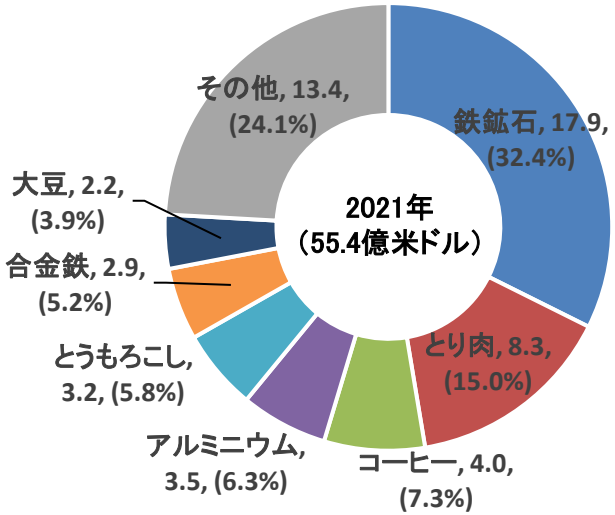
（出典）伯経済省　※数値は2022年2月時点の公表値から算出

対日貿易

対日貿易においては、主要輸出品目は資源（鉄鉱石、アルミニウム等）や食品（肉類、コーヒー、トウモロコシ、大豆等）、主要輸入品目は自動車関連が中心となっている。

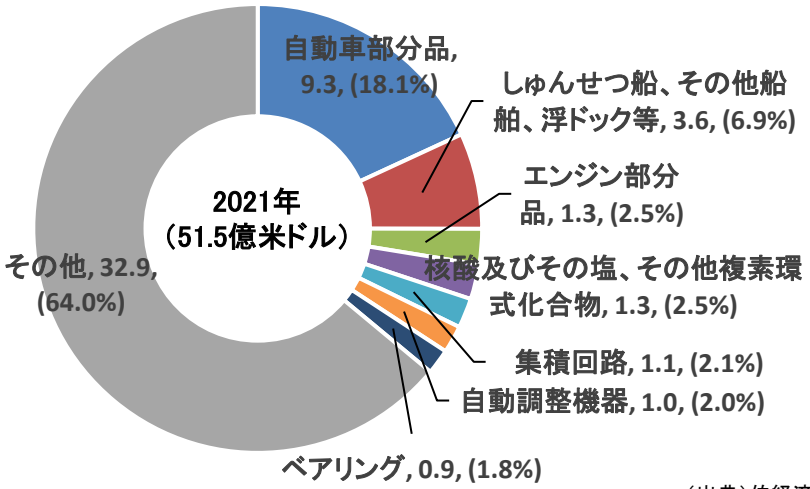
ブラジルの対日本主要輸出品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



ブラジルの対日本主要輸入品目

数値は億米ドル、括弧内は構成比



（出典）伯経済省
※数値は2022年2月時点の公表値から算出

ブラジルの対日本主要輸出品目の日本側から見たブラジルの構成比（2021年）

【鉄鉱石】

	億円	構成比（%）
総計	19,656.0	100.0
① オーストラリア	10,854.7	55.2
② ブラジル	5,592.5	28.5
③ カナダ	1,385.4	7.0
④ 南アフリカ共和国	715.1	3.6
⑤ アメリカ合衆国	275.9	1.4

【とり肉】

	億円	構成比（%）
総計	1,365.9	100.0
① ブラジル	889.5	65.1
② タイ	407.9	29.9
③ アメリカ合衆国	32.6	2.4
④ ハンガリー	15.9	1.2
⑤ フランス	10.6	0.8

【コーヒー】

	億円	構成比（%）
総計	1,447.3	100.0
① ブラジル	446.9	30.9
② コロンビア	228.8	15.8
③ ベトナム	200.7	13.9
④ グアテマラ	101.1	7.0
⑤ エチオピア	79.3	5.5

【アルミニウム】

	億円	構成比（%）
総計	6,836.6	100.0
① ロシア	1,357.5	19.9
② オーストラリア	1,120.3	16.4
③ アラブ首長国連邦	1,088.7	15.9
④ ニュージーランド	425.2	6.2
⑤ ブラジル	382.8	5.6

【とうもろこし】

	億円	構成比（%）
総計	5,199.6	100.0
① アメリカ合衆国	3,779.6	72.7
② ブラジル	738.9	14.2
③ アルゼンチン	416.2	8.0
④ 南アフリカ共和国	242.6	4.7
⑤ フランス	8.8	0.2

【合金鉄】

	億円	構成比（%）
総計	3,134.2	100.0
① カザフスタン	657.4	21.0
② 中華人民共和国	453.4	14.5
③ ロシア	396.0	12.6
④ ブラジル	339.6	10.8
⑤ 南アフリカ共和国	307.7	9.8

【大豆】

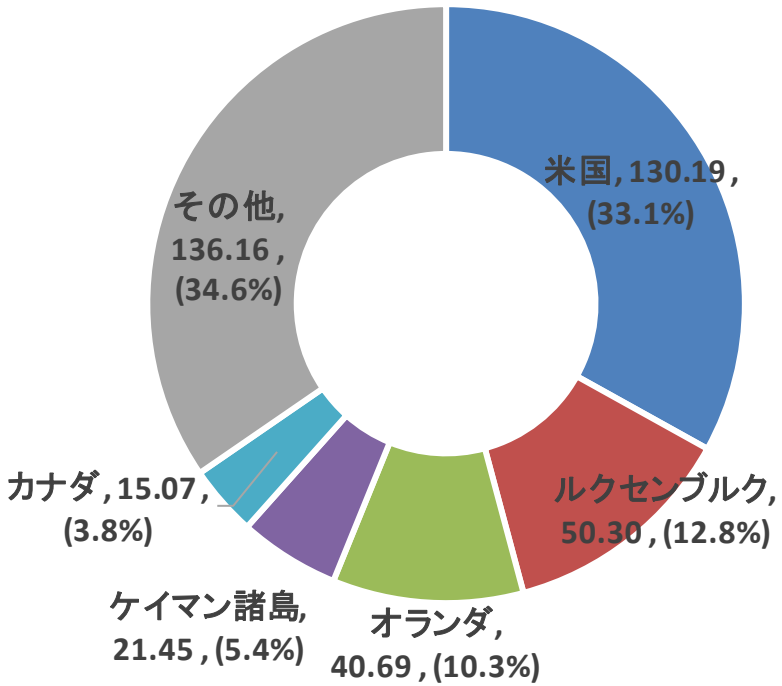
	億円	構成比（%）
総計	2276.9	100.0
① アメリカ合衆国	1702.9	74.8
② ブラジル	320.2	14.1
③ カナダ	226.0	9.9
④ 中華人民共和国	26.2	1.1
⑤ ロシア	1.5	0.1

※日伯ともにHS番号4桁の数値。鉄鉱石2601、とうもろこし1005、とり肉0207、コーヒー0901、アルミニウム7601、合金鉄（フェロアロイ）7202、大豆1201

（出典）財務省（日本）
※数値は2022年1月末時点の公表値から算出

対ブラジル直接投資（資本参加分）の国別構成比
総額393.86億ドル（2021年）

数値は億米ドル、括弧内は構成比

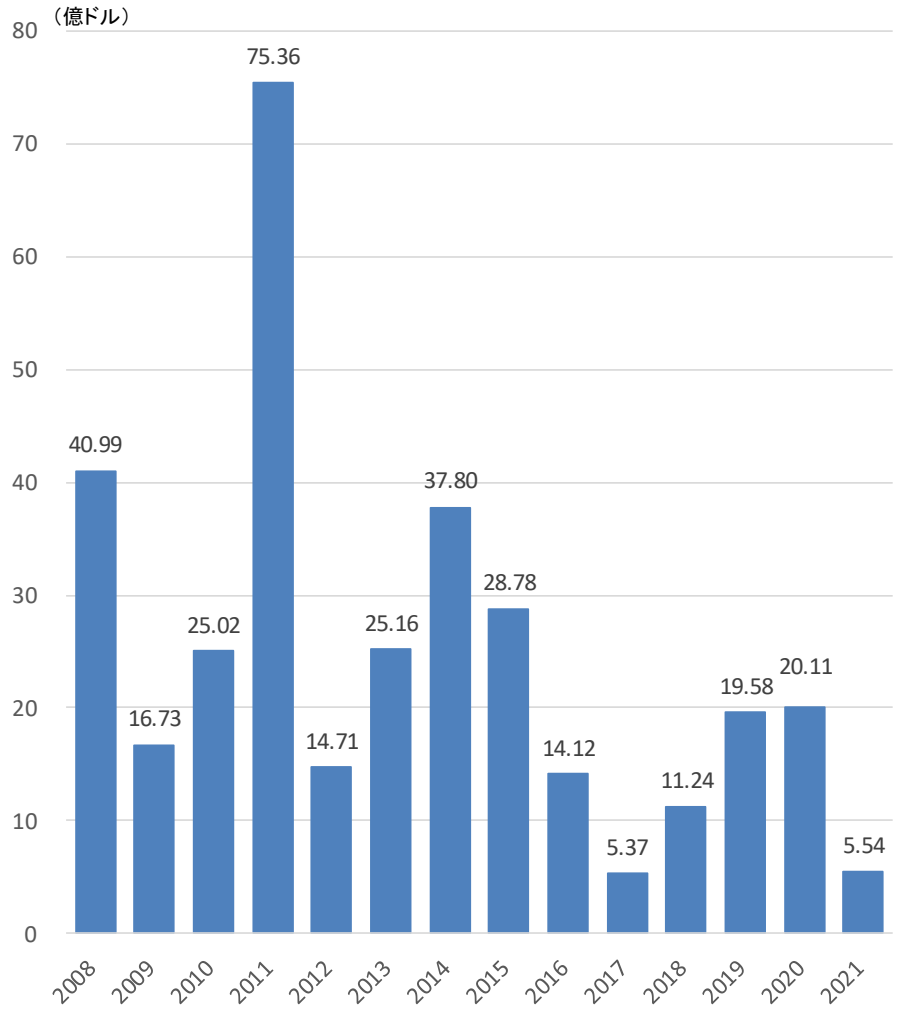


（出典）伯中央銀行

2021年の日本の直接投資額（資本参加分）は5.54億ドルで構成比は1.41%と、17番目の規模。

※ 中国：2.35億ドル（0.44%）。但し、第三国経由の投資額が含まれていないため、実際よりも少ない数値となっている。

日本の対ブラジル直接投資（資本参加分）の推移



（出典）伯中央銀行